

2018年12月12日

古本寄付プロジェクト「送付箱数制限の導入」についてのお願い

株式会社バリューブックス

日頃は古本寄付プロジェクトに対しまして深いご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

標記の件、年末のご多忙な時期に突然のお願いで大変恐縮です。寄付者様にはご不便をお掛けすることになり心苦しいのですが、下記のように古本寄付プロジェクトにおいて申込箱数の制限を実施させていただきます。

記

《古本寄付プロジェクト 送付箱数制限の導入》

【対象】

- ・チャリボン掲載団体およびすべての寄付プロジェクト。
(陸前高田市立図書館ゆめプロジェクト、こどものみらい古本募金も対象となります。)

【開始日時】

- ・2018年12月17日(月)午前10:00

サイトのTOPページに、箱数制限への協力をお願いを掲載します。

【制限箱数】

- ・3箱まで/1申込

【制限方法】

- ・フォーム申込の場合

集荷箱数の入力欄に最大3箱までの制限を系統的に施します。

箱数制限がある旨の注記を箱数入力欄近くに明記いたします。

- ・電話申込の場合

電話口にて3箱までのお願いを申し伝えます。

4箱以上を希望される寄付者様には、ISBNの有無を再度ご確認くださいませ。ご協力いただけない場合はお申込みをお断りする場合がございます。

急遽このようなお願いをするにいたった背景には、物流業界全体での配送料の値上げが大きく影響しております。

昨年末、テレビや紙面でも大きく取り上げられていたように物流がパンク状態にありました。

その結果、配送運賃の値上げの動きが業界全体で進み、当事業は直に影響を受け深刻な問題となっております。

また、これからの時期はお歳暮にクリスマスといったイベントが控え、全国的に物流量の急激な増加が懸念されます。

また「赤い羽根募金」を始め寄付活動が活発となり、大掃除で書籍等を整理される時期でもあり、毎年寄付の申し込みは増加する傾向にあります。

弊社倉庫での作業においても、この繁忙期の大口荷物はかなりの負担となっておりますが、物流業界においても小口荷物への対応が進み大口荷物は敬遠される方向にあります。

さらに、現在古本寄付プロジェクトにお贈りいただく書籍の中で、実際に買い取りさせていただき寄付につなげることが出来る書籍は約40%です。残りの60%は取り扱うことができず寄付に繋がっておりません。

それらの書籍を国内の小中学校の図書館や海外の研究機関などに寄贈し活用する努力をしておりますが、残念ながら大部分は再生紙用リサイクルとなってしまうのが現状です。

これらの書籍の長距離輸送は地球環境的にも避けたいと考えております。

累計のデータでも、3~5箱を境に急激に買取率(送られた本のうち買い取れる本の比率)が落ちているのを見て取ることができます。

これらのことを踏まえ幾度と議論を交わした結果、誠に勝手ながら12月17日(月)以降のチャリボンや他古本寄付プロジェクトへのお申し込みを「送付箱数最大3箱まで」に制限することにいたしました。

私どもは2010年のプロジェクト開始以降、少しでも皆様のお役にたてるよう日々尽力してまいりました。

この度も可能な限り貴団体様と寄付者の皆様にご負担をおかけしないよう、慎重に検討を重ねて参りましたが、苦渋の決断をさせていただきました。

送付箱数制限は、当プロジェクトを継続させていくために必要な措置となります。

貴団体様と寄付者の皆様には多大なるご迷惑をおかけし大変心苦しいですが、ご理解とご協力をいただけますようお願い申し上げます。

この度、このような状況になって改めて「眠っている本を活かす」こと、「廃棄される本を救う」ことの難しさを痛感しています。

今後は、1冊でも多くの本を活用できるよう取り組みを広げていくとともに、寄付に繋がらない書籍への配送運賃をいかに抑制することができるかが最重要課題と考えております。

古本寄付の仕組みが持続可能な仕組みとして展開できるよう、より一層精進してまいります。

どうぞ引き続きお力添えをいただけますようよろしくお願い申し上げます。

ご不明点などございましたら何なりとお申し付けくださいませ。

株式会社バリューブックス

寄付担当

廣瀬聡

成澤健司